

高知大学インサイド・
コミュニティ・システム

KICS
Kochi university
Inside
Community
System



「地方創生に対する大学の貢献
～大学型CCRC構築に向けて～」

高知大学 地域連携推進センター長
受田 浩之



高知型CCRC

Kochi-type Continuing Care Retirement Community

- 高知大学の概要
- 課題先進県高知と県産業振興計画
（移住促進施策も含む）
- KICS
（教員の地域配置、サテライトオフィスと教室）
- 生涯学習（出前型）と産業人材育成（土佐FBC）
- 地域協働学部の立ち上げ
- 地域産学官民のCCRCへの関心
- 高知型CCRCの提案（郊外型・立教セカンド
ステージ大学との連携、中心市街地型）

「高知」の概要



高知大学の概要

- 学部**5**(人文, 教育, 理, 医, 農)+土佐さきがけプログラム
・・・学生数約5,000人【県内出身校入学者比率 約24%、県内就職者比率 約24%】
- 教職員数・・・教員:約700人、職員数:約1,000人

キャッチフレーズ

「5つの能力で社会の力に！4つのCで高知から世界へ！！」

Chance

人間関係を作る力など社会性の不足や権利と責任のバランスの喪失、規範意識の希薄化、あるいは他人への思いやりの不足が叫ばれている中、自らの能力向上に向け、たゆまぬ努力を惜しまない人材を育成します。

Challenge

人間性、社会性に富み、活力のある人材の育成を目指します。

Change

教養教育、専門教育や正課外教育あるいはインターンシップを通じて5つの能力(表現力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力、異文化理解能力、情報活用能力)を身に付けさせます。

Create

21世紀の知識創造社会で活躍できる人材を輩出します。



高知県の概要

- 県内市町村数・・・**34**(市11 町17 村6)
- 人口・・・約74万人(うち高知市34万人)
- 特徴(課題)・・・人口が全国に15年先行して自然減
高齢化率の上昇が全国の10年先行
生産年齢人口の減少が続く

(参考) 課題解決先進県を目指した高知県の取り組み (人口減少対策の全体像)



第2期高知県産業振興計画の全体像

人口の自然減・高齢化の進展等により県内市場はどんどん縮小

《高知県経済を立て直すための全体戦略》
活力ある県外市場にモノを売って外貨を稼ぐ
「地産外商」を進める

基本方向1

「足元を固め、活力ある県外市場へ打って出る」
◇官民協働で「外商」を強化する
◇県外からの観光客の誘客を強化する

基本方向2

「産業間の連携を強化する」
◇ものづくりを強化し、付加価値を高める

基本方向3

「足腰を強め、地力を高める」
◇第一次産業を伸ばす
◇地域アクションプランを推進
◇中山間対策を強化

基本方向4

「新たな産業づくりに挑戦する」
◇新たな産業集積を目指す

全体を下支え

基本方向5

「産業人材を育てる」
◇学びの場を創り出し、産業人材を育てる

全体を下支え

基本方向6

◇移住促進により、活力を高める
(主な戦術の一部)
○「高知家」プロモーションと連動した「高知家の移住」PR
○アクティブな情報発信による地域が求める人材の誘致
○官民協働による移住促進(高知県移住推進協議会の運営)
○移住・交流コンシェルジュによるきめ細かな相談対応
○「専門相談員」の充実
○「地域移住サポーター」の普及
○移住者向け住宅等の確保
○民間支援団体のネットワーク形成支援



高知家で暮らし隊
無料 会員大募集

高知に住みたい人
必見!!

高知大学インサイド・コミュニティ・システム (KICS : Kochi university Inside Community System)

平成25年度「地(知)の拠点整備事業」採択



高知県

地域課題が多様化
解決のための新たな切り口が必要

課題

キャンパスが県中央部に集中
地域からの「声」が遠い



高知大学

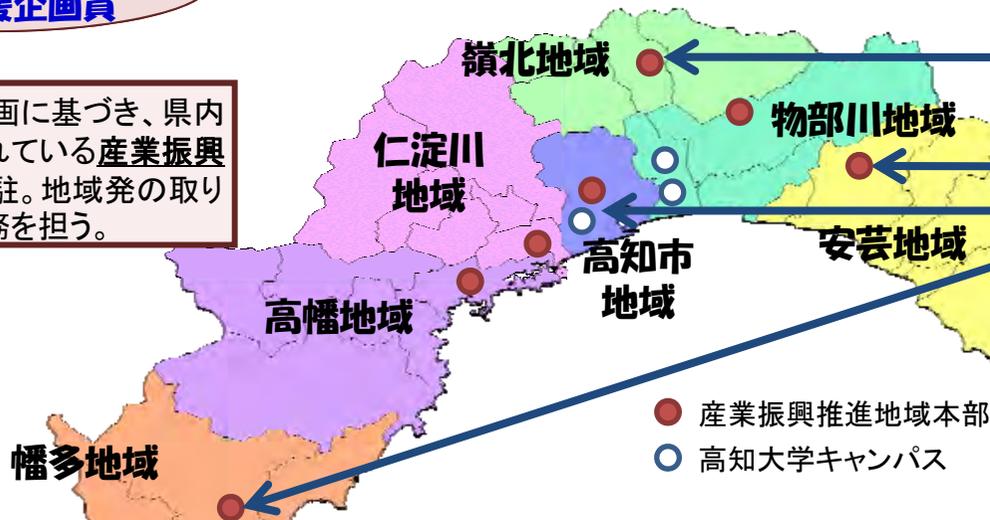
地域産業振興監・地域支援企画員とUBCとの連携による
新たな課題解決体制の構築

地域産業振興監
地域支援企画員

UBC:高知大学地域コーディネーター
(University Block Coordinator)

高知県産業振興計画に基づき、県内7ブロックに設置されている産業振興推進地域本部に常駐。地域発の取り組みを支援する任務を担う。

産業振興推進地域本部にUBCサテライトオフィスを設置。UBC(特任教員)4名が常駐する。



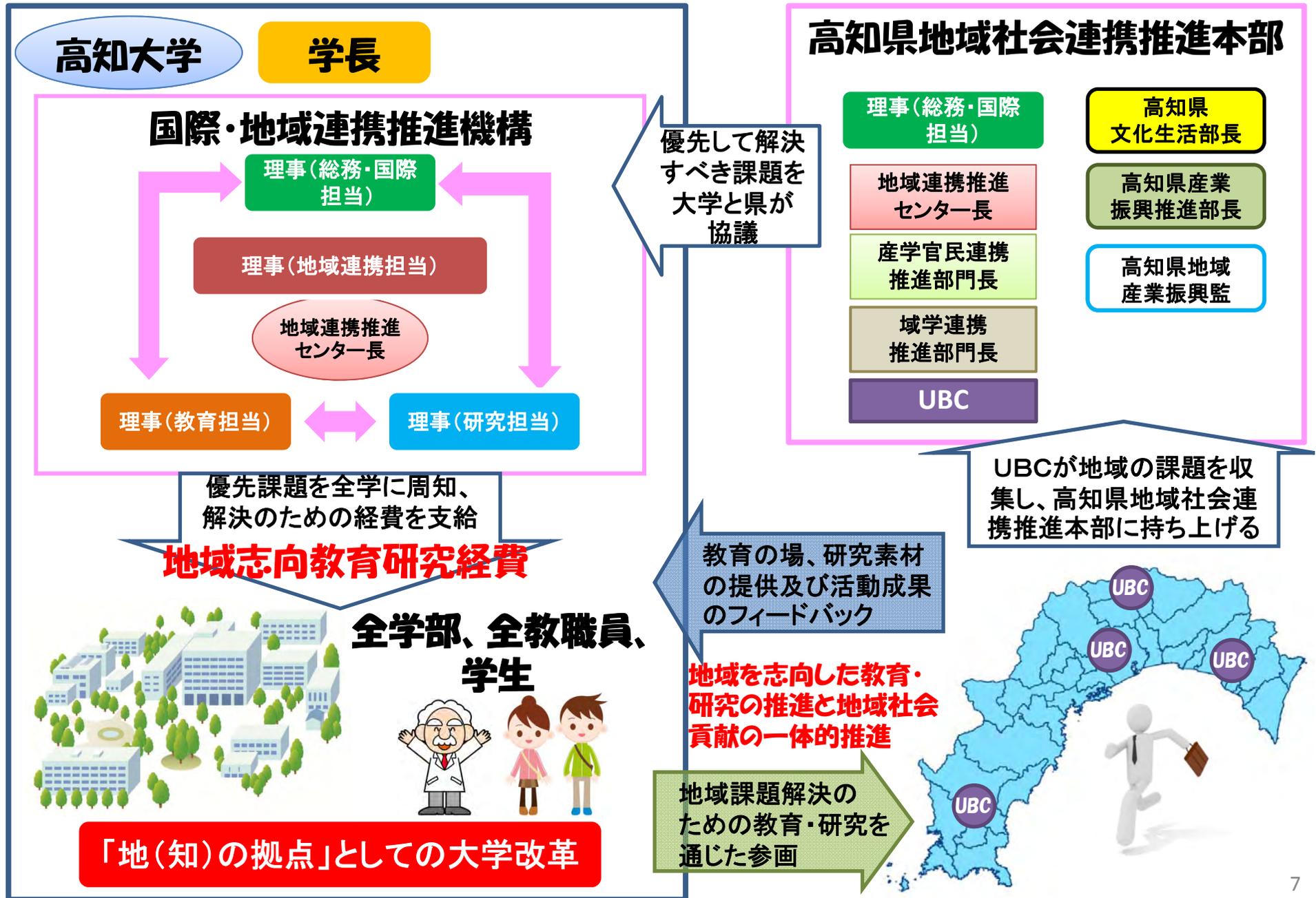
<UBCの役割>

産学連携	(共通事項)	③課題解決のための人材紹介
	①課題の掘り起こし	④課題解決のための予算獲得
地域協働	②課題解決のアドバイス	⑤地域産業の人材の育成
		⑥地域をフィールドとする教育・研究のサポート
		⑦生涯学習の場の提供

高知県地域課題の解決に向けた高知大学との連携		
高齢化	全国より約10年先行する高齢化への対策	→ 人生の「セカンドステージ」を充実する学びの場の構築
中山間地域	暮らしの維持、地域の文化の継承、コミュニティの再生	→ 学生による実地研修、自発的な地域課題解決に向けた取り組み
産業の脆弱化	高知県産業振興計画の実行	→ 産学官連携による計画の促進
災害多発地域	防災分野の「ものづくり」活性化、ソフト対策の整備	→ 企業の技術開発や官のソフト対策に対するシーズ提供

高知大学の改革の方向性・機能強化		
教育	地域課題解決に資する人材の育成	→ 全学的なCOC教育の推進、地域をフィールドとした教育、地域協働学部の新設
研究	県内企業の研究開発への一層の貢献	→ 地域志向教育研究経費を活用した企業の課題解決に資する研究の実施
社会貢献	地域再生に資する社会人教育、生涯学習の充実	→ 地域の実情に合わせた教育プログラムの提供

高知県との対話に基づく地域課題解決のサイクル



高知大学の出前公開講座

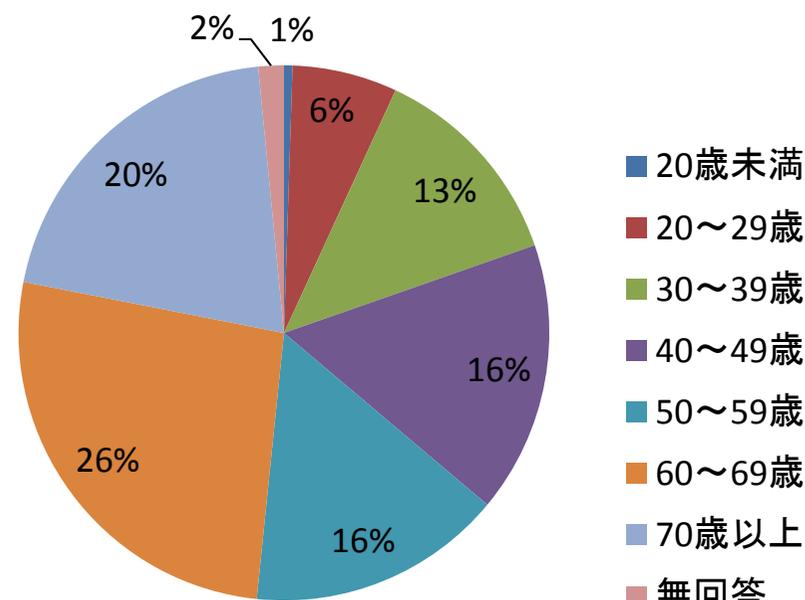
- ✓ 大学等による公開講座の大半は大学キャンパス内や人口密集地での実施
- ✓ 移動に困難を抱える人・地域への生涯学習ニーズを十分に満たせない



生涯学習ニーズのある地域に講師をお届けする“出前公開講座”



○平成21年度からの
受講延べ人数2,900名
○受講者の過半数が
50代以上(右図)



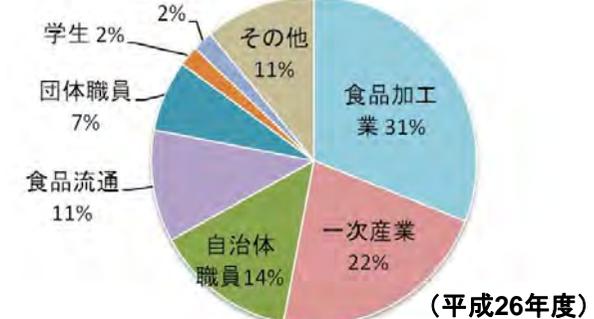
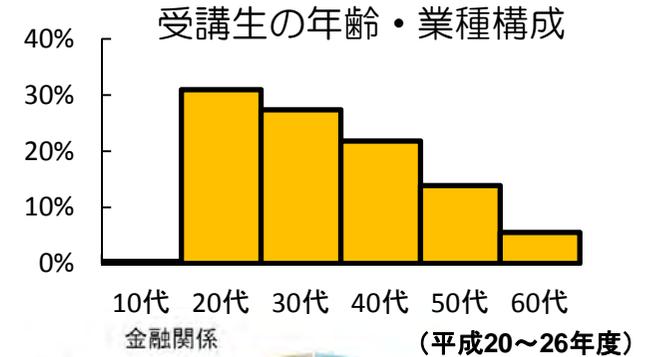
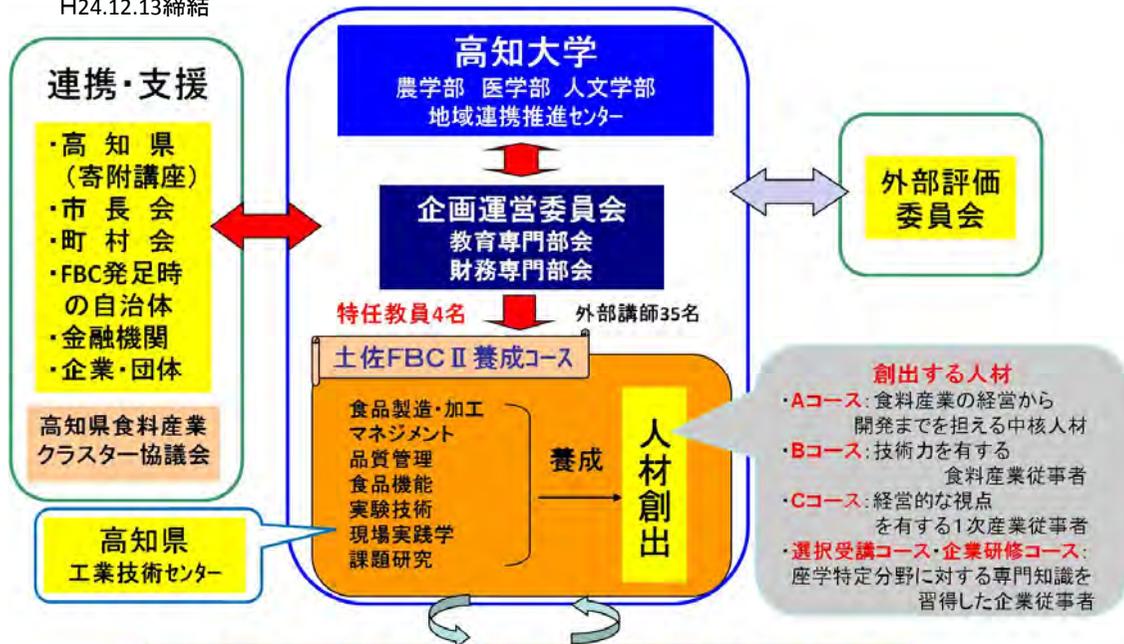
- 地元役場との連携により開講
(大学)地域の生涯学習ニーズの詳細を役場職員から事前にヒアリング、対応可能な教員を講師として派遣
(役場)広報紙、地域内放送等により住民への広報を担う



高知大学 土佐フードビジネスクリエーター人材創出事業

高知大学が、高知県の食料産業の中核を担う専門人材及び
高知県の食料産業の拡充に資する基礎人材を養成

高知県と高知大学との
包括的連携協定
H24.12.13締結



JA職員 1次産業生産者 食品加工業従事者
食品流通業従事者 自治体職員 地域の学生

土佐FBC倶楽部(修了生OB・OG会)

修了生235名



高知県アンテナショップ
銀座・店長



農業生産法人
設立



土佐FBC 講師
土佐FBC倶楽部役員



土佐FBCから誕生した商品

技術的に商品開発を支援
受講生のコラボレーションも生まれている



ユズスポーツ
ドリンク



ユズ
リキュール



ヘルシージェラート



豆腐プリン(冷凍商品)

高知大学地域協働学部

平成27年4月設置予定

地域協働学部の設置

～「地域の大学」としての覚悟～

【設置の趣旨】

- ・平成27年4月設置。
- ・昭和52年に文理学部が改組して以来、38年ぶりの**新学部(6番目)**の誕生。
- ・少子高齢化、産業の脆弱化、中山間地域の疲弊に起因する**高知県の地域課題を解決する担い手を育成**する。
- ・学生は1年次から4年次まで、県内各地でフィールドワークを実施。
限界集落をはじめとする**地域コミュニティの再生**、耕作放棄地の利活用、商店街の活性化、地域特産品の販売など学生自らが企画を練り上げ、**地域住民と協働しながら、組織・人を動かす力を身につける**。
- ・「**学生力を地域の再生と発展に活かす教育研究の推進**」を基本理念とし、多くの学生が地域に入り、地域と一緒に考えていく。実現すれば国立大学では**全国初の学部**となる。
- ・高知大学は、地方の国立大学としての使命を果たし、日本の高等教育の新しいモデルを構築し、そのフロントランナーとなる。

地域協働学部 先駆的な特色

6次産業化を担う「地域協働型産業人材」を育成
学生教育を通じた地域の課題解決の先駆的モデル

入学定員

60名 少数精鋭

専任教員は24名

学内資源の再配分

特色ある入試

多彩な実習授業を配置

学年末関所(進級評価)

地域での学習成果報告会

社会人の学び直し

ガバナンス改革

地域課題の解決
地域が求める新しい
産業人材を育成



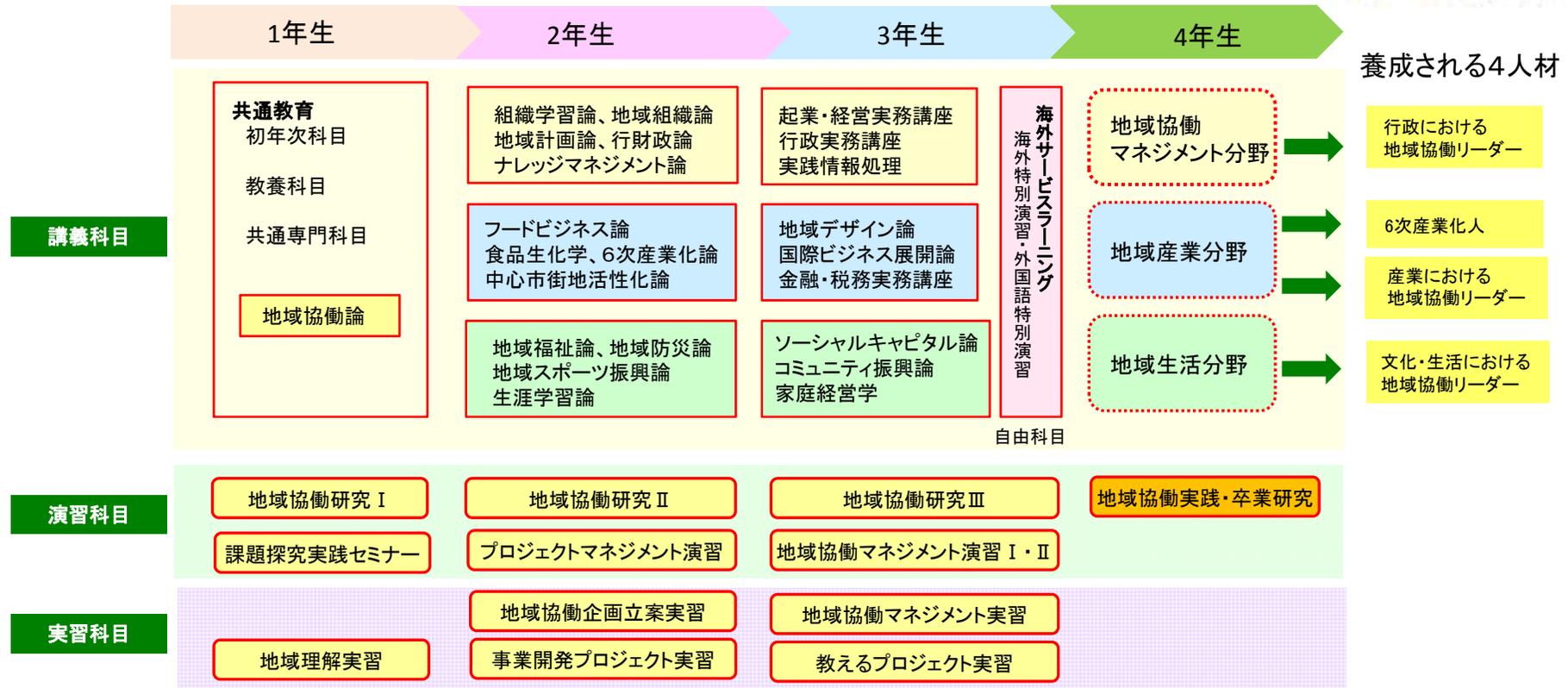
地方国立大学
フロントランナー

イタリア・サッサリ大
学、タイ・タマサート大
学との教育連携

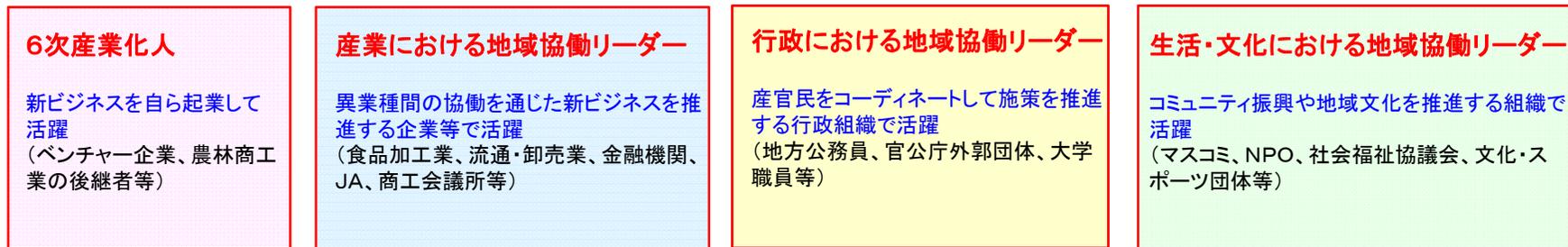
高知大学

地域協働学部
地域協働学科

◆ カリキュラムマップ



◆ 卒業後の具体的な進路



◆ 地域協働に対する社会的要請
 国の「教育再生実行会議」は、今後の大学教育の在り方について学内だけに閉じた教育活動ではなくて、キャリア教育、中長期のインターンシップ、農山漁村も含めた地域におけるフィールドワーク等の体験授業を通じた社会との接続を意識した教育を強化することを求めている。つまり、地域協働を基盤とした実践的な教育プログラムによる地域人材の育成を重視すべきであるとしている。

土佐経済同友会のCCRC米国視察

(2012年11月11日～15日)



視察メンバー:

高知県(総務部、地域福祉部、産業振興推進部)、高知大学(地域連携担当副学長)、高知銀行東京支店長、日本航空高知支店長、土佐経済同友会代表幹事(建設会社社長)、同幹事(健康福祉委員会委員長介護施設顧問)、同幹事(産学官民連携委員会委員長)、MRI他



訪問先:

①カリフォルニア州デービスUniversity Retirement Community

②カリフォルニア州サンフランシスコSan Francisco Towers ③カリフォルニア州サンフランシスコSequoias-San Francisco

④カリフォルニア州デービスOsher Lifelong Learning Institute (OLLI) UC Davis Extension



高知型CCRC

● 郊外タイプ

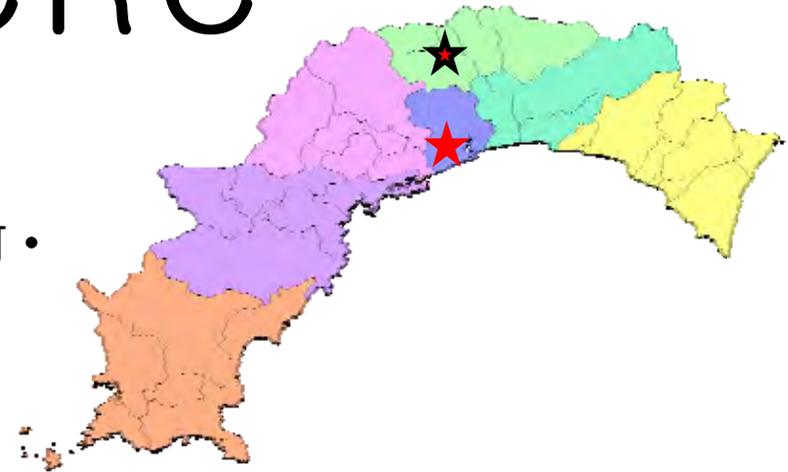
場所：例えば県北部・嶺北地域（土佐町・本山町・大豊町・大川村）★

住まい：高知県の移住促進事業の活用

生きがい：高知大学サテライト教室

安心（介護施設）：？

特徴：「限界集落」発祥の地。課題の先端地域。ソーシャルイノベーション創発適地。首都圏シニアの活躍の場。



● 中心市街地タイプ

場所：高知市永国寺 ★

住まい：既存住宅（空家利用？）

生きがい：高知県立大学永国寺キャンパス産学官民連携センター

安心（介護施設）：民間施設の充実

特徴：課題の先端地域に近接。学びを含めた公的施設が密集。多様な首都圏シニア活躍の場。

超高齢社会に対応した「シニア合宿プラン」の企画

定年退職者が「第二の人生」に向けた準備をするための合宿プラン(シニアブートキャンプ)を企画

Target	「第二の人生」で地域・社会貢献に興味があるが、一歩踏み出せない首都圏在住のシニア層
Why 高知？	<ul style="list-style-type: none">● 「課題先進県」日本が今後迎える社会課題がすべて存在するフィールド● 「進取の気性」生涯現役で新しいことにチャレンジする地元「超」高齢者との交流● 「若年移住者」地方で新たな人生に挑戦する若年移住者(イノベーター)からの刺激● 「おもてなし文化」酒を酌み交わせば余所者でも暖かく迎え入れる県民性● 「高知大学の存在」課題解決に挑戦する人材を育成・輩出する機関との連携  <p>合宿地として最適</p>
How 実現体制	<ul style="list-style-type: none">● 立教セカンドステージ大学(50歳以上を対象とし、毎年約100名の新入生を迎えるシニア大学)● 高知大学[KICS](各地域にUBCを配置し、課題解決先進県に取り組む実施主体)● 土佐山アカデミー(学びを通じた移住者支援・交流人口拡大に取り組むNPO)
Goal 目指す姿	刺激を受けた首都圏シニアが地方創生の担い手で活躍(地方移住・回遊型居住の可能性) →生涯現役で活躍できる場(日本版CCRC)を構築し、超高齢社会の解決策を国内外に発信



同大学に通う首都圏シニア学生が「自分が参加したい」合宿を企画



UBCからの「高知の地域課題」講義、首都圏シニアの活躍可能性について意見交換



起業に取り組む若者移住者との交流、土佐山の課題と地域資源紹介



企画した合宿プランは来春以降に具現化予定

「シニア合宿プラン」 企画に向けた意見交換・フィールドワーク (平成26年12月6日～8日実施)

移住支援を行う土佐山アカデミー訪問



若者移住者との交流



地元県民との意見交換



「高知の抱える社会課題」の講義



首都圏シニアの活躍可能性 意見交換



高知大UBCと嶺北地域フィールド視察



ご清聴ありがとうございました。

「敬地愛人」

～地域を敬い、人を愛する～